



“ロータリーが求めるもの”

パストガバナー 安孫子 貞 夫

最近のロータリーの傾向として、ロータリー財団や国際奉仕・世界社会奉仕といった団体的奉仕活動の面に力を入れているのが現況です。一部のロータリアンに、RIは奉仕の実践面のみ強調して、会員個々の心の形成について指導を疎かにしていると言われる方がおります。しかしRIの立場に立てば、国際的に緊迫したニーズがある以上、その対応を呼び掛けるのはごく当然なこととして受け止めねばなりません。ここでご注意ください。ここでご注意いただきたいのは、こうした活動に参加することはロータリーの本質ではなく付随的なものだということです。

ロータリーの本質はクラブ例会の中にあり、「ロータリーの心」を形成することが目的です。したがって例会活動を通じて「ロータリーの心」を形成することについて、どれ程強調しているかどうかはクラブの責任です。なぜ例会があるのか、それを正しく理解していただかねばなりません。

皆さんには、こうした話はあまり歓迎されないことと思いますが、このところは、ロータリーを正しく理解していただくために避けて通れない重要な部分なのです。しかもロータリーは常に発展しており、何時も新会員がおられるものです。今日はそうした人達を対象にして申し上げたいと思います。

ロータリアンにとって一番重要なことは、ロータリーとは何かという点にあると思います。これさえ正しく理解されていれば、クラブ奉仕にせよ、職業奉仕にせよ、社会奉仕にせよ、また国際奉仕にせよ、あるいはルールに至るまでロータリアンが何事を行おうとするにも、あまり苦勞することなく、かなり明快に解決することができるのです。

◎ロータリーと聞いたとき何を連想しますか…

- ロータリー・クラブとロータリアンによって構成される組織
- クラブとロータリアンを鼓舞する精神、思想、思考
- クラブとロータリアンを指導する原理
- 慣行及び慣例
- クラブとロータリアンが達成を期する目的及び綱領

◎ロータリークラブがロータリーであるための原則

- (1) 毎週1回の定例会会の開催を大切にすること。

◇ 何のために例会が開催されるのか、その目的を正しく理解すること。

☆ロータリーと人生が直結している人をつくることにある。

☆各会員が同僚ロータリアンから新しい発想を学び合うという、情報交換の場である。

(自己研鑽、自己改善、生涯教育、異業種

交流、人生道場)

☆学ぶことによって得たエネルギーを、自己の企業管理のみならず地域社会生活全般の改善に生かしていくことにある。

◇ ロータリーのロータリーたる所以はクラブ奉仕にある。

☆定例会の重要性を認識し、その質を高めること。どこまで高めることができるか、限界性への挑戦でなければならない。

☆例会が機能するための理事会、役員、委員会の役割の自覚を高めること。

☆会長は、綱領に表現された会員各自の奉仕活動を象徴的に体現する意味での代表者として、これを唱導し、推進する任務を付託された役員である。

☆会長は例会において最高の情報提供者である。

☆会長は、細則上、例会、理事会、その他のクラブ会合の議長であり、また全ての委員会の職権上の委員であるから、これらの任務を通じて、その卓越した奉仕者としての指導性を十分に発揮するよう機会を与えられている。

☆したがって、クラブの質は会長がどの程度のロータリー思想を認識し、実行しているかによって象徴される。

☆幹事は要職だから理事にすべきで、当地区で天童と寒河江が職権上の理事(発言はするが、議決権なし)なのは誤りという説があるが、これは間違い。幹事は理事会への提案者だから、中立を保つため、理事でない方がよい。

☆委員会活動を機能させること。(インフ

ォーマル・ディスカッション・ミーティングの効用)

☆クラブ・フォーラムとアッセンブリーについて

それぞれの性格は異なりますが、会員にとって唯一の発言の場であること、最高の情報及び発想の交換の場です。十分に議論を尽くして下さい。

基本は会員各自が自己研鑽の目的意識を自覚し、定款細則に定めるルールに従い、クラブ運営の一翼を担うことが求められている。

☆例会運営を担いロータリーに出席することを繰り返し、ロータリークラブを何度も何度も眺めることによって、自分の心の中にロータリーの精神が結晶化される。これを長く続けることによって、自分と人生との関係の理解を自分の心の中に作り上げることができる。ロータリーではこれをクラブ奉仕と言っている。

☆会員であることの原点に、自己改善の努力の自覚がなければ、ロータリーの対社会的価値は何も無いと言える。

(2) 一業種一会員制の原則(職業分類の原則)

◇ 「親睦」の原点は一業一会員制にある。

☆良質な会員(地域社会の代表的な人達、知性的にも一流、最も倫理的な企業管理を行うグループ)による出会いの保障。

☆異業種の良質な対人関係を通じて発想の交換(企業管理及び社会生活における人間関係の改善)。

☆地域の人口からすれば、ほんのわずかの職業人からなる活動である。

☆社交クラブであるがゆえに、団結力、集
団力に欠けるグループ活動である。

☆一業一会員制であるがための会員の責任
……同業者にロータリアンの商法の正当
性、優秀性を示さなければならないとい
う、倫理的な義務が課せられている（職
種におけるロータリーの代表として送り
こまれている）。

自分自身の人生を豊かなものにし、社会を明る
くする真のよりどころである奉仕理論を身に付
け、かつ追求していかなければならない。

その心を持って家庭生活、職業生活、社会生活
の中で実践をし、更に社会生活を通じて理論の提
唱をしなければならない。

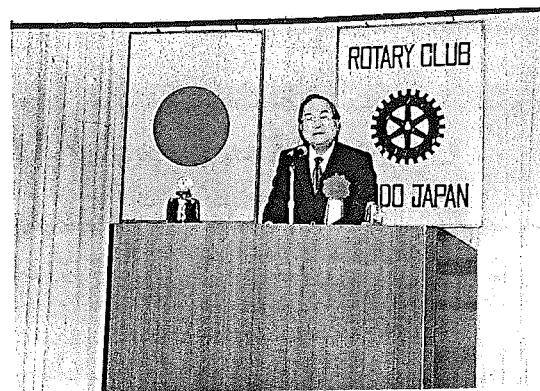
◎ロータリーの本質は、奉仕を求めるために親睦
活動を行い、世俗の論理から離れて、良質な思考
を交換し合い、お互いの足らざるを補い合
うという生涯教育の場である。それがロータ
リーである。

◎ロータリーが求めている奉仕の心について

◇ 綱領の本文について

さて、ロータリーが求める奉仕の心とは
どんな心かと一口で申すならば、ロータ
リーの綱領が全てであります。

ロータリーの綱領は、ロータリーの神髄
であり、ロータリーの目的を表しております。
だからこそ、これは同文を持って国際
ロータリー定款第4条及び標準クラブ定款
第3条に規定されているのです。このこと
は、ロータリーのありとあらゆる問題に対
処していくには、我々は絶えずロータリー
の綱領を持ってしなければならないことを
意味します。



ロータリーの綱領は、ご案内のとおり二
つの部分から成り立っております。一つ
は、一言でロータリーとは何かを書いた部
分で、本文であります。もう一つは、本文
に対する補強原則として1、2、3、4と
4項目が書かれております。これは、本文
を簡潔にしかも短文にまとめようとすべ
する程、多様な解釈が成り立ち、実質的な
意味が千差万別なものになりがちだからで
す。補強原則はそうした現象を防ぐために書
かれたものであると理解すべきでしょう。

本文には、ロータリーの綱領は、「有益
な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹
し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、
育成することにある」とありますが、これ
は馴染みにくい文章ですので、次の様にか
み砕いたものにしますと、かなり分かりや
すくなります。

ロータリーとは、《企業の根底に奉仕を
置くべしとする理想を、提唱することをも
って目的とするクラブ活動のことを言う》
となります。

(分かりやすく言えばロータリーとは、例
会出席を通じて、企業の根底に奉仕を置く
べしとする理想を追求し、これを提唱するこ
とが目的である、ということになります。)

これは、企業の根底に奉仕があるべきこ
とを明らかにし、そして、各ロータリアン
が、その理想を例会出席を通じて追求すべ
きことを明らかにしているのです。これが
ロータリーの本質なのです。

多くの人達は、企業を物または労務と金
銭の交換のことと考えがちです。つまり、
企業とは儲けのための営みとして捕えよう
とする訳です。しかし、ロータリーはこの
ような平凡な考え方に対する反省を求める
ものなのです。確かに損をしては企業は成
り立ちません。しかし、反面儲けさえすれ
ば何を行ってもよいというものでもないの
です。

企業を永続的に繁栄させるには、一個の
取引が他の取引の誘因になることが望まし
い。一つの商品をお客に売るときには“商
品+満足を売り”、代金を受け取るときに
は“代金+感謝を受け取る”ようにする。
このような場合、一個の取引に伴う人間関
係の改良と申しますか、当事者間の心の交
流に着目して、ロータリーはこれを《奉仕》
と呼んでいるのです。

これは正に、決議23-34号にあります
「利己と利他との調和」の追求と全く同じ
次元なのであります。ロータリーにおける
クラブ活動の本体は、この点にあることを
綱領は一言で明快に示しております。

ところで、「企業の根底に奉仕を置く」と
いう考え方の基礎に何かがあるのか……、この
点について、具体的にどういう心を持って
対処すればよいか、その手順と内容につい
て綱領の1、2項に述べられているのです。

◇ 綱領の(1)について

- 超我の奉仕（自己研鑽の奉仕）
- 実力の涵養と人格の形成
- ロータリーの例会は人生の道場だ

綱領第1項は、「奉仕の機会として知り
合いを広めること」とありますが、これを
分かりやすく表現しますと、“心の友を得
て自己研鑽のチャンスにしない”となり
ます。友とは、もう一人の自分である。ま
ず、友を通じて己を知ることから自己研鑽
が始まるのです。会員一人ひとりに、例会
出席を通じて良き友達を広め、自己研鑽を
図ることを求めている訳です。

ポール・ハリスはこのところに「親睦と
奉仕の調和」が大切であると言っているの
です。一般の社会概念では「親睦と奉仕の
調和」と言うと、例会は親睦を旨とし、社
会に出ては奉仕を、とそのバランスを求め
ているように解釈しがちですが、これは正
しくありません。ロータリーは独特の社会
制度を持っておりまして、「親睦と奉仕の
調和」を例会活動の中に求めているので
す。この場合《親睦》とは、世俗から離れ
て楽しく心と心が通い合い、心の向上に役
立ち、お互いが学び合える教育の世界を意
味し、《奉仕》とは心の形成、人格の向上を
指しております。

ロータリーの標語“Service Above
Self”とは正にこのことでありまして、公
式には「超我の奉仕」と訳されております
が、例会出席を通じて自己改善、切磋琢磨、
それから自他を分かたぬ思考を形成するこ
とです。

要するに“Service Above Self”「超我の奉仕」とは、「自己研鑽の奉仕」のことであると解釈した方が分かりやすいと思います。

ロータリーが出席に厳しいのは、何よりも例会を重要視しているからです。例会は、一業一会員制によって峻別された良質な職業人の出会いが保障されたところであり、職種が違うがゆえに企業経験が異なり、それぞれ異質の発想を持つ良質の職業人との親睦活動の中から、実力を涵養し人格を形成していくという、教育的生活を持っています。

しかし、ロータリーは教育的チャンスを与えてくれるだけです。例会は全ての会員が師となり弟子となって、お互いの知恵を交換し合う場であります。したがって、チャンスは、その人が利用する気にならなければ何の価値も意味もないということになります。

一部の人は、例会に出席しなくても自己研鑽ができると言われる方がおりますが、ロータリーではこの方法を認めておりません。ライオンズクラブと大きく異なるところがこの点であります。したがって例会活動に参加するということは《自己研鑽の目的意識を持って、定款・細則に定めるルールに従ってクラブ運営の一翼を担う》という自覚がなければならぬということです。

◇ 綱領の(2)について

さて、ロータリーの親睦は心を教育する世界だということですが、親睦を通じて何を学ぶのか、親睦の実質的内容については、綱領第2に示されています。

ここでは、ロータリーの企業経営観・職業観の根本について書かれておりまして、三つに要約されます。

- ① 自己の職業の社会的責任を自覚すること（職業とは、社会に貢献するためにあるとの自覚をもつこと）。
- ② 職業に貴賤なしとの認識を深めること（社会に有用な職業は全て平等であるという認識をもつこと。大会社の社長も百姓の親父も平等であるということ。人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらざるの思考）。
- ③ 職業の根底にある倫理基準を高めよ（職業は契約の世界です。したがってロータリー運動は一種の道徳運動でありまして、その本体は個人倫理の確立にあるということです）。

以上三点がロータリーの経営観の要約であり、職業奉仕の根底に置くべき考え方です。これを職業生活を通じて実践することを、職業における奉仕の実践と言います。自分の職業を真に社会の役に立つよう努める、これが根本的な使命であります。

心の質を向上させれば、実践は自ずから至る。「理論と実践の調和」「職業奉仕の哲学」「利己と利他との調和」＝「奉仕哲学」「人生哲学」これは日常生活において、四六時中自分の置かれた状況において、自分の行動を具体的に決定しようとする場合、「ロータリーは自分に対して、いかなる行動を命ずるか」を問う生活態度である。

ロータリーは「ロータリーと人生が直結している人」を求めているのです。